

## 岩手県の防除体系における米の農薬残留

現行の防除体系に沿った農薬使用における米の残留濃度は、出穂直前までの使用であれば概ね検出限界未満である。また、出穂期以降でも使用基準の範囲内で使用した場合の残留量は、最大で残留農薬基準の1/3程度である。

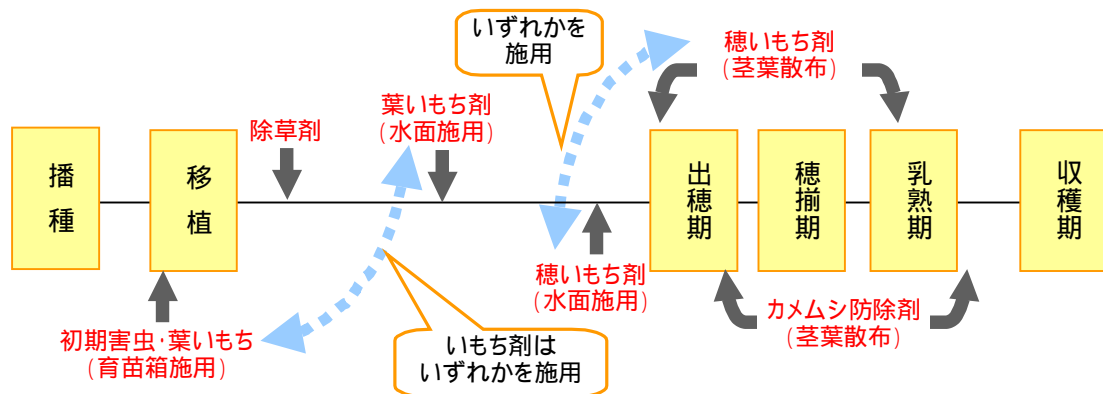


図 代表的な防除体系

1. 育苗箱施用の殺菌剤・殺虫剤（プロベナゾール、カルプロバミド、フィプロニル、イミダクロプリド）および、除草剤（メフェナセット、プレチラクロール）の残留は、**検出限界**（0.01または0.02ppm）**未満**であった。
2. 水面施用の殺菌剤の玄米および白米の残留は、6月下旬施用のプロベナゾール、8月初旬施用のピロキロンとも**検出限界**（玄米：0.02または0.01ppm、白米：0.01または0.005ppm）**未満**であった。
3. 出穂直前から使用する**茎葉散布剤**（イソプロチオラン、フサライド、トリシクラゾール、MEP、BPMC）の残留は、散布時期が遅くなるにつれて残留濃度は高くなる傾向が認められたが、いずれも残留量は最大でも基準値の1/3程度で、**基準値未満**であった。

表 各防除農薬の玄米における残留の傾向

|                | 調査農薬成分名                            | 移植時  | 移植直後 | 水面施用<br>(6月下旬) | 水面施用<br>(7月下旬) | 出穂直前 | 出穂期    | 穂揃期以降   |
|----------------|------------------------------------|------|------|----------------|----------------|------|--------|---------|
| 殺菌剤・殺虫剤(育苗箱施用) | 菌<br>プロベナゾール<br>カルプロバミド            | 検出せず | -    | -              | -              | -    | -      | -       |
|                | 虫<br>フィプロニル<br>イミダクロプリド            |      | -    | -              | -              | -    | -      |         |
| 除草剤            | メフェナセット<br>プレチラクロール                | -    | 検出せず | -              | -              | -    | -      | -       |
| 殺菌剤(水面施用)      | プロベナゾール<br>ピロキロン                   | -    | -    | 検出せず           | 検出せず           | -    | -      | -       |
| 殺菌剤・殺虫剤(茎葉散布)  | 菌<br>イソプロチオラン<br>フサライド<br>トリシクラゾール | -    | -    | -              | -              | 検出せず | わずかに検出 | 基準値未満検出 |
|                | 虫<br>MEP<br>BPMC                   | -    | -    | -              | -              | -    | -      | -       |